

ファッション文化専門学校DOREME 実務経験のある教員等による授業科目一覧

学科	デザイン造形学科
専攻	服飾造形専攻

授業科目	1年次		2年次		実務経験者 科目時間	ページ数
	単位 時間数	実務経験 教員	単位 時間数	実務経験 教員		
服飾造形	324	○	396		324	3,16
ディティールワーク	72					4
造形デザイン	36					5
デザイン画	36	○	36	○	72	6,17
デザイン画B						
デザイン研究Ⅱ			18			18
ハンドワーク			18			19
パターンメイキング	90	○	72		90	7,20
P検対策	36	○	36	○	72	8,21
アパレル生産技術			18	○	18	22
色彩学	36	○			36	9
F.コーディネーション	36	○			36	10
服飾美学	36	○			36	11
キャリア開発			18	○	18	23
アパレル企画			36	○	36	24
服飾造形ワーク			36			25
オープン実習	144	○	144	○	288	12,26
ファッションイベント	68	○	68		68	13,27
進級制作	72	○			72	14
卒業制作			72			28
計	986	878	968	288	1166	

デザイン造形学科

服飾造形専攻 1年次 教育課程

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	1
コース名	服飾造形			単 位	21
科目名	服飾造形			授業期間	前期 後期 通年
担当教員名	石川 優希			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	324
実務教員	○	オンワード樫山のボタンナーを経て独立、フリーランスのボタンナーとして活躍した経験を活かし、教鞭をとっている。			
授業の到達目標 及びテーマ	実物制作での裁断～縫製までの基礎を習得。				
授業の概要	ミシン・手縫いでの基礎的な縫い方を習得。 実物制作で、裁断・印付け・仮縫い・補正・縫製テクニックなどの基礎を習得する。後期は洋裁技術検定の対策授業も行う。				
授業計画	前期	4月	キュロットスカート		
		5月	基本のスカート		
		6月	デザインスカート		
		7月	アパレルシャツ 夏休みの課題スカート		
		8月	デザインシャツ		
		9月	デザインシャツ		
	後期	10月	パンツ		
		11月	スーツ		
		12月	スーツ		
		1月	スーツ 洋裁技術検定		
		2月	スーツ		
		3月	スーツ		
	教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する			
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率50・実技30・授業態度20				

学科名	デザイン造形			履修年次	1	
コース名	服飾造形			単 位	4	
科目名	ディテールワーク			授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	門馬 よし子			必修 選択		
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	72	
実務教員	×					
授業の到達目標 及びテーマ	洋服を作り上げるのに必要な基本的ディテールの細かい縫製テクニックを身につける。					
授業の概要	洋服を制作するための基本的各種ディテールの知識と縫製技術を習得する。					
授業計画	前期	4月	ピンクッション① 定期ケース①			
		5月	ピンクッション② 定期ケース②			
		6月	ピンクッション③ 定期ケース③ 脇空きファスナー コンシールファスナー			
		7月	定期ケース④ ショールカラー ボタンホールトレーニング①			
		8月				
		9月	パッチポケット 玉縁ポケット			
		10月	シームポケット 箱ポケット 刺繍トレーニング①			
	後期	11月	フラップポケット 刺繍トレーニング② スモッキングトレーニング①			
		12月	刺繍トレーニング③ ラウンドN・AHの始末 玉縁ボタンホール ボタンホールトレーニング② ボディカバー①			
		1月	ボディカバー② 刺繍ブックカバー スモッキングトレーニング②			
		2月	スモッキングトレーニング③			
		3月				
教科書・参考書等	必要に応じてその都度提示する					
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：課題100%					

学科名	デザイン造形			履修年次	1			
コース名	服飾造形			単 位	2			
科目名	造形デザイン			授業期間	前期	後期	通年	
担当教員名	西條 綾子			必修 選択				
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	36			
実務教員	×							
授業の到達目標 及びテーマ	限られた条件の中でアイディアを膨らませ形にする制作を通じ、自分の個性を伸ばし伝えたいイメージを的確に表現できるようにする。 また物を正しく見るトレーニングで右脳を活性化し、集中して楽に正しく描けるようになる。自分の中の可能性を実感し、自信を持つ。							
授業の概要	平面における色と形による基本的な表現の基礎を学び実践する。 色の再現を通じて各自が使う色域の範囲を広げる。 対象物を様々な見方で描く実習を行い、見方と描き方の変化を検証する。							
授業計画	前期	4月	パターンデザイン	物を見るトレーニング・トレーニングの説明 トレーニング前の記録・自分の顔				
		5月	パターンデザイン	物を見るトレーニング・逆に描く すばやく見る				
		6月	パターンデザイン 屋外デッサン	ゆっくり見る				
		7月	色の模写	対象物と背景の捉え方 光と影の描き方①				
		8月	色の模写	光と影の描き方②				
		9月	ミクストメディア コラージュ	記号化の理解とそこから逃れる方法 自分の顔・トレーニング成果の検証				
	後期	10月	ミクストメディア・コラージュ					
		11月	ヴィジュアルブック					
		12月	ヴィジュアルブック					
		1月	デッサン					
		2月	授業のまとめ					
		3月						
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する							
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：課題提出状況40％ 課題完成度40％ 授業態度20％							

学科名	デザイン造形		履修年次	1	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	デザイン画		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	村上 智子		必修 選択		
授業方法	講義	演習 実習	授業時間数	36	
実務教員	○	(株)クレセントにてレディースカジュアルウェアの企画職を経験し、(株)繊維リサーチにてファッションに関するトレンド、商品や消費者リサーチと、分析を行っていた講師が教授する。			
授業の到達目標 及びテーマ	デザイン画を通して、自分達が着用している“服”についての役割やおもしろさ、又 シルエットやディティール、バランス等の違いによって様々な変化があるデザインの基礎を学ぶ。				
授業の概要	デザインの土台となる人体について、ニュアンスを作るポージングの学習。人体の動きと服の状態を自然な着装スタイルとして表現すること習得する。				
授業計画	前期	4月	オリエンテーション 講義概要の説明、年間内容の説明		
		5月	ベーシックプロポーションⅠ 9頭身バランスによる描写、向きの変化		
		6月	ベーシックプロポーションⅡ ポージングの練習		
		7月	着装スタイルⅠ 原型着装・基本ポーズ		
		8月	着装スタイルⅡ シルエットやボリュームバリエーションの着装		
		9月	テクニカルディテール表現とマガジンコピーⅠ(アイテム別表現) ギャザー、ドレープ、プリーツ		
	後期	10月	マガジンコピーⅠ アイテム別表現		
		11月	マガジンコピーⅡ 着色による表現		
		12月	オリジナルデザイン		
		1月	オリジナルデザイン		
		2月	オリジナルデザイン		
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率・授業態度・課題提出状況 50％ 課題評価 50％				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	1		
コース名	服飾造形			単 位	6		
科目名	パターンメイキング			授業期間	前期	後期	通年
担当教員名	石川 優希			必修 選択			
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	90		
実務教員	○	オンワード樫山のボタンナーを経て独立、フリーランスのボタンナーとして活躍した経験を活かし、教鞭をとっている。					
授業の到達目標 及びテーマ	各種の作図方法を学び、実物制作に活かせる力を身につける						
授業の概要	スカート～ジャケットまでの基本的な製図の書き方を習得						
授業計画	前期	4月	採寸のしかたについて 基本のスカートの書き方				
		5月	セミタイトスカート、Aラインスカート、フレアスカート、ギャザースカート サーキュラスカート、ティアードスカート、ヨークドスカート				
		6月	ロー＆ハイウエストスカート、原型、ダーツの展開、基本の袖 ボックスシルエット①、ボックスシルエット②、タイトシルエット①				
		7月	タイトシルエット②、シャツブラウス、パフスリーブ				
		8月					
		9月	基本のパンツ、ワイドパンツ、スリムパンツ				
	後期	10月	ジャケット(ノカラー、1枚袖)、ジャケット(ショルカラー)、ジャケット(ブリンセスシルエット、スタンドカラー) ジャケット(4枚パネル、テーラードカラー、ヘチマカラー、2枚袖)				
		11月	洋裁技術検定製図対策				
		12月	洋裁技術検定製図対策				
		1月					
		2月					
		3月					
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する						
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：実技80％ 出席率15％ 授業態度5％						

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	1
コース名	服飾造形			単 位	2
科目名	P検対策			授業期間	前期 後期 通年
担当教員名	宇賀神 美弥子・石川 優希			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	36
実務教員	○	(株)オンワード樫山にてパタンナーを担当した後、独立、長年婦人服パタンナーとして活躍していた教員が、企業でのパターン、工業用パターンなど総合的に指導し、パターン検定合格を目指す。			
授業の到達目標 及びテーマ	パターンメイキング技術検定試験3級（理論・製図・実技）対策授業。その学習の中でアパレル業界で活躍するパタンナーに必要なパターンに関する基礎的な技術と知識を習得する事を目的とする。				
授業の概要	理論→アパレル企業でのパターン・工業用パターン・グレーディング・素材についての基礎学習。 実技→半袖シャツの製図から組み立て（半身）				
授業計画	前期	4月			
		5月			
		6月			
		7月			
		8月			
		9月	実技→シャツの製図練習		
	後期	10月	理論→既製服の概念・ファーストパターン・工業用パターン 実技→シャツの製図練習		
		11月	理論→グレーディング・素材・過去問 実技→組み立て練習		
		12月	実技→試験		
		1月			
		2月			
		3月			
教科書・参考書等		必要に応じて、その都度提示する			
評価方法		A～D・E 評価 評価基準：出席率50％ 実技40％ 授業態度10％			

学科名	デザイン造形			履修年次	1		
コース名	服飾造形			単 位	2		
科目名	色彩学			授業期間	前期	後期	通年
担当教員名	相田 志			必修 選択			
授業方法	講義 演習 実習		授業時間数	36			
実務教員	○	(株)オンワード樫山の営業、バイヤー、VMDとして活躍した後、office i代表として人材育成に勤しむ講師がファッション業界の様々な知識を教授する。					
授業の到達目標 及びテーマ	色相環とトーン表を理解することで色が出来る仕組み＝混色を学ぶ 色彩調和論の基本から色から伝わるイメージを理解する 色彩検定3級合格を必達し、自主的に2級を取得する力を付ける						
授業の概要	色彩の基本を理解し、配色の基本、カラーが伝えるイメージを理解する。 アパレルにおけるカラーの重要性を理解し、色によって感じ方の違いを学ぶ。						
授業計画	前期	4月	2019SS、AWコレクションよりトレンドカラーを知る。				
		5月	PCCSの色相環とトーン表を理解する 絵具を使って混色を実践。色はどうやってできるのか？				
		6月	色相環とトーン表より色の特性を学ぶ 色の持つイメージを理解する				
		7月	光と色 色はなぜ見えるのかという科学的な根拠を学ぶ 目の構造と、「光、物体、視覚」の関係				
		8月	色の三属性 色の視覚的効果				
		9月	色の視覚的効果と知覚的効果 色相、トーンからの配色				
	後期	10月	ファッション、インテリアにおける色彩 3級検定対策問題				
		11月	3級検定対策問題 試験後は2級基礎～マンセル表色系				
		12月	JISの色名と系統色名 ナチュラルハーモニーとコンプレックスハーモニー				
		1月	自然から学ぶ色彩 配色技法応用				
		2月	光の性質と色 照明の知識				
		3月					
		教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率50％、課題提出25％、期末試験25％						

学科名	デザイン造形		履修年次	1	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	ファッションコーディネート		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	菅野 敦子		必修	選択	
授業方法	講義	演習 実習	授業時間数	36	
実務教員	○	銀座三愛（現(株)Ai）にて商品企画、マーチャンダイザーを担当した教員が、アパレル産業の実状やショップ、ブランドのあり方を教える。			
授業の到達目標 及びテーマ	ファッションに必要なコンセプトメイキングツールとしての要素の基礎を学ぶ				
授業の概要	多種多様な雑誌を利用し、マップ作りの基礎、プレゼンテーションの基礎を学ぶ				
授業計画	前期	4月	ファッション学に関するオリエンテーション 「自分にとってのファッション観とは？」		
		5月	ファッションを文化と捉え、ファッションを構成する4大テーマを映像学習し、レポートを作成する		
		6月	・人はなぜ装うのか？ ・世界のファッションデザイナー ・素材 ・色彩		
		7月	オケージョンスタイリング(TPOの概念から対応するベストコーディネートの提案、マップ作り)		
		8月	ライフスタイリング→クラスター分析 ・衣食住＋遊休知美というカテゴリーの把握から客層分類へ発展		
		9月	ライフスタイリングのマップ作り プレゼンテーション		
	後期	10月			
		11月			
		12月			
		1月			
		2月			
		3月			
教科書・参考書等		必要に応じて、その都度提示する			
評価方法		A～D・E 評価 評価基準：課題50％ 出席率50％			

学科名	デザイン造形		履修年次	1	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	服飾美学(素材学、ビューティー、服装史)		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	門馬 よし子/小幡 賢二/大宮 恵理		必修 選択		
授業方法	講義 演習 実習		授業時間数	36	
実務教員	○	大宮恵理：(株)ジュン、イギン(株)、(株)リーガルマインドを通してパタンナー、デザイナー、そしてライセンスコーディネーターとして活躍していた。 小幡賢二：(有)コラボレーション・マル代表取締役として仙台のスタイリスト業界を牽引している。			
授業の到達目標 及びテーマ	(素材)洋服を制作する際に必要な素材の特徴、基本的な布地名、クリーニング法、被服の保管・加工法などの勉強。(ビューティー)ファッション業界でのスタイリスト、メイクアップアーティストの仕事と役割、世界観を学ぶ。(服装史)服装の成り立ちから現代のファッションデザインソースへの創造力の育成、服飾基礎理解と固定概念からの脱却。				
授業の概要	(素材)洋服を具体的な形にするための知識とそれをどのような素材で制作するか等の性質の特徴を習得する。(ビューティー)在仙で活躍するスタイリスト、メイクアップアーティストがテーマに合わせたテクニックを披露する。(服装史)海外ファッションと日本のファッションの関わりを理解。				
授業計画	前期	4月	繊維の種類と特徴と分類(素材)		
		5月	天然繊維の知識・動物繊維の知識(素材) 2019年春夏メイトレンド&トータルコーディネート(ビューティー)		
		6月	羊毛についての知識・化学繊維の知識(素材) 2019年ブライダルビューティー学(ビューティー)		
		7月	基本的な布地の名称・織物の三原組織(素材)		
		8月	プリント柄の分類及び名称(素材)		
		9月	ストライプ&チェック柄の名称(素材) 2019年秋冬メイトレンド&トータルコーディネート(ビューティー)		
	後期	10月	服地の表裏・たて・よこの見分け方、燃焼による布地の鑑別法(素材) 世界服飾の流れ、ヨーロッパのファッション史Ⅰ&Ⅱ(服装史)		
		11月	家庭用合成洗剤のあらまし及びクリーニング法(素材) モード産業、新しい衣服の方向Ⅰ(服装史)		
		12月	被服の保管(素材)		
		1月	しみの種類としみ抜き方法・加工法について(素材) 新しい衣服の方向Ⅱ、後期試験(服装史)		
		2月	試験解答手交、解答説明(服装史)		
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率50% レポート25% 試験25%				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	1
コース名	服飾造形			単 位	4
科目名	オープン実習			授業期間	前期 後期 通年
担当教員名	各学科担当者、講師			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	144
実務教員	○	(株)アングローバル、日本毛皮教会理事、ミシンメーカー営業、(株)ユニクロ、(株)三越伊勢丹ホールディングス、(株)AZOTH、Ana Dapuzzoデザイナー、Hanaemori Manuscritデザイナー、Keisuke Kandaデザイナー等が特別講師として講義、ワークショップを行う			
授業の到達目標 及びテーマ	外部講師を招いての特別講義で社会のニーズと専門知識を学ぶ。学生個々やグループでの作品制作を通じて各自の個性を伸ばし、協調性を養う。学外実習や見学と通じ社会のしくみや繋がりを経験する。				
授業の概要	学外講師を招いての特別講義・ワークショップ 学外実習のための準備と制作 企業や文化施設、展示会等の見学、実習				

授業計画	前期	4月	対面式練習(2年) キャリア開発(2年) 校内企業説明会 コミュニケーション(1年)
		5月	ミシン・ロックミシン講習(1年) 特別教養講座(毛皮)(2年)
		6月	フリーマーケット実習(2年) 東京研修旅行(2年) 卒業生による特別講義Ⅰ
		7月	学校見学会用ファッションショー準備と制作 デザイン研究(デザイン造形学科)
		8月	アートフラワー(デザイン造形学科)
		9月	ファッションセミナー 企業研修(ファッションビジネス学科、アーツ&クラフト学科)
	後期	10月	
		11月	卒業生による特別講義Ⅱ
		12月	フォーマルファッション講座(2・3年)
		1月	ファッションイベント準備と制作
		2月	ファッションイベント本番
		3月	キャリア開発(1年)

教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席状況 90% 課題(レポート等) 提出状況 10%

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	1	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	ファッションイベント		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	石川 優希		必修 選択		
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数 68	
実務教員	○	オンワード樫山のボタンナーを経て独立、フリーランスのボタンナーとして活躍した経験を活かし、教鞭をとっている。			
授業の到達目標 及びテーマ	縦割り活動であるファッションショー制作を行うことで、他学科の生徒ともコミュニケーションを図り、社会人基礎力に繋げる。主体的に行動する力、コミュニケーション能力を養い、成長に繋げる。				
授業の概要	ファッションショーの制作 演出、モデル、音響、映像、照明、広報、メイク、フィッター等各係に分かれて活動を行う。				
授業計画	前期	4月			
		5月			
		6月	学校テーマ発表		
		7月			
		8月			
		9月			
	後期	10月	卒業制作		
		11月			
		12月	卒業制作審査会		
		1月	ファッションショー作品確定 モデル選考、ショー構成、テクニカル打ち合わせ		
		2月	練習、PR ファッションショー本番		
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率100%				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	1	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	進級制作		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	石川 優希		必修 選択		
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数 72	
実務教員	○	オンワード樫山のボタンナーを経て独立、フリーランスのボタンナーとして活躍した経験を活かし、教鞭をとっている。			
授業の到達目標 及びテーマ	1年間で学んできた内容を振り返り、グループワークにて企画を行うことで、次年度への目標を再確認する。				
授業の概要	年間の学びの総まとめとして、スーツの制作、ファッションショーを行う。 テーラードカラーのスーツを製作し、自らが着用出来るように仕立てる。 さらにファッションショー用にテーマを考え、テーマに沿ってアレンジ、ショーを構成し、発表する。				
授業計画	前期	4月			
		5月			
		6月			
		7月			
		8月			
		9月			
	後期	10月	進級制作		
		11月	テーマ検討、デザイン確定		
		12月	縫製		
		1月	縫製		
		2月	ショー構成確定		
		3月	制作物まとめ ショー 評価		
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率30% 授業態度20% 課題30% プレゼンテーション20%				

デザイン造形学科

服飾造形専攻 2年次 教育課程

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	2	
コース名	服飾造形			単 位	26	
科目名	服飾造形			授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	平間 愛子			必修 選択		
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	396	
実務教員	×					
授業の到達目標 及びテーマ	実物製作を通じて課題に相応しい素材の選び方、シルエットによる製図法、フィッティングの体験、縫製法、着装法などを学ぶ					
授業の概要	端的に且つ正確に完成させるための技術と知識を習得する					
授業計画	前期	4月	ボディスローパー(各自の原型を作る)			
		5月	ベスト 製図、裁断、仮縫い ポケット、ネックライン、アームホール、裾、ボタンホール、ボタンつけ			
		6月	ジャケット(チェック地) 製図、裁断、仮縫い、ポケット、テラー、カラー			
		7月	ジャケット 裾、袖、ボタンホール、ボタン付け			
		8月	子ども服 成長著しい子ども服の縫製法			
		9月	卒業制作(製図、パターン)			
	後期	10月	卒業制作 トータル製作、仮縫い、素材リサーチ			
		11月	卒業制作 複数点製作するため、各自の製作スケジュールに沿って進行			
		12月	フォーマルウェア 概論、デザイン考案、製図			
		1月	フォーマルウェア 製図、裁断、印付け、仮とじ			
		2月	フォーマルウェア 仮縫い、本縫い			
		3月				
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する					
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：実技70％ 出席率25％ 授業態度5％					

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	2	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	デザイン画A		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	村上 智子		必修 選択		
授業方法	講義	演習 実習	授業時間数	36	
実務教員	○	(株)クレッセントにてレディースカジュアルウェアの企画職を経験し、(株)繊維リサーチにてファッションに関するトレンド、商品や消費者リサーと、分析を行っていた講師が教授する。			
授業の到達目標 及びテーマ	自分のイメージするものを“具現化＝デザイン”する為の考え方やプロセスを学び、より自分らしさを表現出来る作品作りを目指す。				
授業の概要	コンテスト作品を中心に、オリジナル性を高めるイメージの広げ方、描写方法、画材の使い方などを指導。 また現場に於いて必要とする、実務的なデザイン画を習得。				
授業計画	前期	4月	オリエンテーション (講義概要、年間授業内容の説明)		
		5月	コンテストデザインⅠ (イメージ発送とまとめ方)		
		6月	コンテストデザインⅠ (デザイン画への落とし込み)		
		7月	平面画 (アイテム別練習)		
		8月	コンテストデザインⅡ (コンセプト～アイディア出し)		
		9月	コンテストデザインⅡ (デザイン画描写)		
	後期	10月	卒業制作デザイン画		
		11月	卒業制作デザイン画		
		12月	オリジナルデザイン ターゲットのライフスタイルプランの設定		
		1月	オリジナルデザイン デザイン作成		
		2月	オリジナルデザイン デザイン作成		
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率・授業態度・課題提出状況 50% 課題評価 50%				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	2
コース名	服飾造形			単 位	1
科目名	デザイン研究Ⅱ			授業期間	前期 後期 通年
担当教員名	鹿野 光子			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	18
実務教員	×				
授業の到達目標 及びテーマ	ステージコスチュームの知識と研究 1/2大作品制作				
授業の概要	シラバス10枚使用(No.1～No.10) クラシックバレエ衣装、ロマンチックチュチュを1/2大で制作				
授業計画	前期	4月	No.1 身頃スカートのパターン作成 布裁断		
		5月	No.2～No.7 トップの縫製		
		6月	No.8,No.9 スカートの縫製		
		7月	No.10 仕上げ		
		8月			
	後期	9月			
		10月			
		11月			
		12月			
		1月			
		2月			
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率30% 実技20% 完成度50%				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	2		
コース名	服飾造形			単 位	1		
科目名	ハンドワーク			授業期間	前期 後期 通年		
担当教員名	門馬 よし子			必修 選択			
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	18		
実務教員	×						
授業の到達目標 及びテーマ	服飾造形のデザイン構成に表現力を磨いて手芸作品が応用できることを目標とする						
授業の概要	服飾造形の要素である形、色、素材の基本の理解と観察力、表現力を様々な方法で訓練し、感覚を磨いて手芸作品のデザイン力を習得する						
授業計画	前期	4月					
		5月	ビーズ、スパングルワーク、コードエンブroidアリーワーク①				
		6月					
		7月					
		8月	ビーズ、スパングルワーク、コードエンブroidアリーワーク② キルティングワーク				
		9月					
	後期	10月					
		11月					
		12月					
		1月					
		2月					
		3月					
教科書・参考書等		必要に応じて、その都度提示する					
評価方法		A～D・E 評価 評価基準：課題100%					

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	2	
コース名	服飾造形			単 位	4	
科目名	パターンメイキング			授業期間	前期	後期 (通年)
担当教員名	平間 愛子			(必修) 選択		
授業方法	講義	(演習)	実習	授業時間数	72	
実務教員	×					
授業の到達目標 及びテーマ	平面製図をシーチングで立体化し、素材と製図の関係、シルエットと製図の関係を 知る					
授業の概要	テキスト「パターンメイキングⅠ・Ⅱ」に沿って各種アイテムの製図法を学 ぶ。洋裁技術検定のガイドブックを復習しながら、知識をより深める。					
授業計画	前期	4月	衿の展開法			
		5月	衿・袖の展開法 基本スカートの製図、展開法、シーチングでの組み立て			
		6月	ダーツの展開法、スカートの展開法 (フレアスカート、ギャザースカート、ゴアードスカート、プリーツスカート)			
		7月	ワンピース形態別製図法			
		8月	プリーツ・スカートの製図法			
		9月	ビッグシャツの製図 身頃及びスカートの補正、ラグランスリーブ			
	後期	10月	洋裁技術検定対策 用語解説、ディテール、シルエット			
		11月	洋裁技術検定対策 素材の性質、加工、アパレル製品の特徴			
		12月	洋裁技術検定対策 造形知識、針と糸、服装史、過去問			
		1月	洋裁技術検定対策 製図トレーニング			
		2月				
		3月				
		教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する			
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：実技70％ 出席率25％ 授業態度5％					

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	2
コース名	服飾造形			単 位	2
科目名	P検対策			授業期間	前期 後期 通年
担当教員名	宇賀神 美弥子・石川 優希			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	36
実務教員	○	(株)オンワード樫山にてパタンナーを担当した後、独立、長年婦人服パタンナーとして活躍していた教員が、企業でのパターン、工業用パターンなど総合的に指導し、パターン検定合格を目指す。			
授業の到達目標 及びテーマ	パターンメイキング技術検定試験2級（理論・製図・実技）対策授業。その学習の中でアパレル業界で活躍するパタンナーに必要なパターンに関する技術と知識を習得する事を目的とする。				
授業の概要	理論→3級で学んだアパレル企業でのパターン・工業用パターン・グレーディング素材についての応用学習。 製図→縮尺で与えられたデザインの製図を作図する。 実技→テーラーカラー・二枚袖の製図から組み立て（半身）				
授業計画	前期	4月	理論→アパレル企業のパターンメイキング 人体とパターンメイキング・フラットパターンメイキング		
		5月	理論→工業用パターン・グレーディング		
		6月	理論→素材・縮尺製図 実技→ジャケット製図		
		7月	理論・製図→試験 実技→ジャケット製図・組み立て練習		
		8月			
		9月	実技→試験		
	後期	10月			
		11月			
		12月			
		1月			
		2月			
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率50％ 実技40％ 授業態度10％				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形			履修年次	2
コース名	服飾造形			単 位	1
科目名	アパレル生産技術			授業期間	前期 後期 通年
担当教員名	石川 優希			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	18
実務教員	○	(株)オンワード樫山にてパタンナーを担当した後、独立、長年婦人服パタンナーとして活躍していた教員が、企業でのパターン、工業用パターンなど総合的に指導し、パターン検定合格を目指す。			
授業の到達目標 及びテーマ	アパレル業界にて製品をどのように生産しているのか、生産の仕組み、サンプルから本生産までの流れを学ぶことを目的とする。実技では、高速ミシン(工業用ミシン)を用いて、工場形式でのスカートの制作を行う。				
授業の概要	座学にてアパレル製品の生産について学ぶ。 実技では工場形式の分業にて複数枚のスカートを制作する。店頭に並べることが出来る品質の製品としての完成度を念頭に、効率的に製品を生産する目を養う。				
授業計画	前期	4月			
		5月	アパレル生産の仕組み、量産までの流れ 生産に必要な書類の種類・見方		
		6月	高速ミシン練習 スカート制作(裁断・縫製準備)		
		7月	スカート制作(縫製・仕上げ) スカート検品		
		8月			
	後期	9月			
		10月			
		11月			
		12月			
		1月			
		2月			
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率40％ 実技、授業態度60％				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	2		
コース名	服飾造形		単 位	1		
科目名	キャリア開発		授業期間	前期 後期 通年		
担当教員名	菅野 麻那		必修 選択			
授業方法	講義 演習 実習		授業時間数	18		
実務教員	○	(株)ファーストリテーリング、(株)三越伊勢丹ホールディングスにてキャリアを積んだ講師が、コミュニケーション能力、社会人基礎力の向上に繋がる講義を行う。チームビルディングや自己分析を行い、アパレル業界で必須の能力を養う。				
授業の到達目標 及びテーマ	就職活動や進路決定への不安を取り除き、全員が進路決定出来る様サポートする					
授業の概要	面接練習、グループディスカッション対策を行い、就職活動への恐怖心を和らげる。就職支援だけでなく、社会人としての教養も養い、卒業へ向けての準備をさせる					
授業計画	前期	4月	履歴書の書き方 受かるエントリーシートとは			
		5月	敬語の使い方 適性検査対策（SPI,一般常識問題） 集団面接対策			
		6月	グループディスカッション対策 個人面接対策			
		7月	グループディスカッション対策 個人面接対策			
		8月	お金に関する学習 （クレジットカード、各種保険、年金、税金、生活費等）			
		9月	将来のキャリア形成について （人生設計、卒業後の目標）			
	後期	10月				
		11月				
		12月				
		1月				
		2月				
		3月				
教科書・参考書等		必要に応じて、その都度提示する				
評価方法		A～D・E 評価 評価基準：出席率100％				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	2	
コース名	服飾造形		単 位	1	
科目名	アパレル企画		授業期間	前期 後期 通年	
担当教員名	相田 志		必修 選択		
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	36
実務教員	○	(株)オンワード樫山の営業、バイヤー、VMDとして活躍した後、office i代表として人材育成に勤しむ講師がファッション業界の様々な知識を教授する。			
授業の到達目標 及びテーマ	誰のために服を作るのか、どうしたら売れるのか？というファッションの原点からターゲット分析、雑誌分析、トレンド分析を行い、トレンド商品の提案を行う。OEM、ODMとの違いを理解する。				
授業の概要	ライフスタイルの多様化により、ターゲットの細分化が進む、現在、何を提案するかを様々な角度から分析する。オリジナルブランドの企画。				
授業計画	前期	4月	ファッションマーケティングの手法を理解する 誰のために服を作るのか？多様化するターゲットを分析する		
		5月	商品企画の基本ステップ 情報収集から、ブランドが出来るまでの流れを理解する。		
		6月	商品企画のために必要な情報収集 2019SSコレクション情報からトレンドを知る		
		7月	ファッションカレンダーと月別MDの基本 ショップリサーチとマトリックス分析からブランド位置づけを決定		
		8月	ターゲット企画表の作成、ターゲットイメージマップの作成 2019SSの動向から、次シーズンに何を求めるのかを考える		
		9月	オフィシャル・ソーシャル・プライベートにおけるファッション テーマ。テーマ別イメージマップとアイテム企画表。		
	後期	10月			
		11月			
		12月			
		1月			
		2月			
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率50％、課題提出25％、期末試験25％				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	2	
学年・科名	服飾造形		単 位	1	
科目名	服飾造形ワーク		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	宇賀神 美弥子			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	36
実務教員	×				
授業の到達目標 及びテーマ	服飾造形の課題である卒業制作の作業時間。 卒業制作終了後フォーマルドレス制作の作業時間となる。				
授業の概要	・ 作品制作 ・ 卒業制作 ・ プレゼン準備				
授業計画	前期	4月			
		5月			
		6月			
		7月			
		8月			
		9月			
	後期	10月	卒業制作 実物制作		
		11月	卒業制作 実物制作・プレゼン準備		
		12月	卒業制作 実物制作・プレゼン準備		
		1月	フォーマルドレス制作（製図）		
		2月	フォーマルドレス制作（縫製）		
		3月	フォーマルドレス制作（完成）		
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率40 % 課題40% 授業態度20%				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	2	
コース名	服飾造形		単 位	4	
科目名	オープン実習		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	各学科担当者、講師		必修		選択
授業方法	講義	演習 実習	授業時間数	144	
実務教員	○	(株)アングローバル、日本毛皮教会理事、ミシンメーカー営業、(株)ユニクロ、(株)三越伊勢丹ホールディングス、(株)AZOTH、Ana Dapuzzoデザイナー、Hanaemori Manuscritデザイナー、Keisuke Kandaデザイナー等が特別講師として講義、ワークショップを行う			
授業の到達目標 及びテーマ	外部講師を招いての特別講義で社会のニーズと専門知識を学ぶ。学生個々やグループでの作品制作を通じて各自の個性を伸ばし、協調性を養う。学外実習や見学と通じ社会のしくみや繋がりを経験する。				
授業の概要	学外講師を招いての特別講義・ワークショップ 学外実習のための準備と制作 企業や文化施設、展示会等の見学、実習				

授業計画	前期	4月	対面式練習(2年) キャリア開発(2年) 校内企業説明会 コミュニケーション(1年)
		5月	ミシン・ロックミシン講習(1年) 特別教養講座(毛皮)(2年)
		6月	フリーマーケット実習(2年) 東京研修旅行(2年) 卒業生による特別講義Ⅰ
		7月	学校見学会用ファッションショー準備と制作 デザイン研究(デザイン造形学科)
		8月	アートフラワー(デザイン造形学科)
		9月	ファッションセミナー 企業研修(ファッションビジネス学科、アーツ&クラフト学科)
	後期	10月	
		11月	卒業生による特別講義Ⅱ
		12月	フォーマルファッション講座(2・3年)
		1月	ファッションイベント準備と制作
		2月	ファッションイベント本番
		3月	キャリア開発(1年)

教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席状況 90% 課題(レポート等) 提出状況 10%

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	2	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	ファッションイベント		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	宇賀神 美弥子			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数 68	
実務教員	×				
授業の到達目標 及びテーマ	縦割り活動であるファッションショー制作を行うことで、他学科の生徒ともコミュニケーションを図り、社会人基礎力に繋げる。主体的に行動する力、コミュニケーション能力を養い、成長に繋げる。				
授業の概要	ファッションショーの制作 演出、モデル、音響、映像、照明、広報、メイク、フィッター等各係に分かれて活動を行う。				
授業計画	前期	4月			
		5月			
		6月	学校テーマ発表		
		7月			
		8月			
		9月			
	後期	10月	卒業制作		
		11月			
		12月	卒業制作審査会		
		1月	ファッションショー作品確定 モデル選考、ショー構成、テクニカル打ち合わせ		
		2月	練習、PR ファッションショー本番		
		3月			
		教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する		
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率100%				

教 育 課 程

学科名	デザイン造形		履修年次	2	
コース名	服飾造形		単 位	2	
科目名	卒業制作		授業期間	前期	後期 通年
担当教員名	平間 愛子			必修	選択
授業方法	講義	演習	実習	授業時間数	72
実務教員	×				
授業の到達目標 及びテーマ	卒業制作を悔いのないものにし、学生生活の集大成とする。学内テーマと個人テーマを追求し、メッセージ性の強い作品を作りあげる。				
授業の概要	卒業制作作品のテーマ設定、作品制作、企画書・資料集の作成、プレゼンテーション準備				
授業計画	前期	4月			
		5月			
		6月			
		7月			
		8月	卒業制作 デザイン考案 製図		
	後期	9月	卒業制作 トータル制作 仮縫い 補正 布仮縫		
		10月	卒業制作 本縫い		
		11月	卒業制作 本縫い 付属品の制作		
		12月	卒業制作		
		1月	ファッションイベント準備		
		2月	ファッションイベント準備 発表		
		3月			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する				
評価方法	A～D・E 評価 評価基準：出席率20 % 課題40% 授業態度40%				